

製パン性に優れコムギ縞萎縮病に強い 秋播性小麦新品種「せとのほほえみ」

西日本では、現在、パン用小麦品種として「せときらら」や「ミナミノカオリ」が広く栽培されていますが、子実のタンパク質含有率の確保や収穫期の雨による品質低下、コムギ縞萎縮病、暖冬年における幼穂の凍霜害などへの対応が課題となっています。農研機構が育成した「せとのほほえみ」は、高い製パン性と穂発芽耐性を有する秋播性のパン用小麦品種です。コムギ縞萎縮病に強く、秋播性であることから、コムギ縞萎縮病発生地域や冬季の気温が比較的低い地域にも適応し、関東から九州までの広い地域で栽培が可能です。

☆ 技術の概要

1. 「せときらら」より成熟期が1日遅く、稈長は短く倒伏に強い品種です。
2. 秋播性の品種で、穂発芽耐性は“やや難”と「せときらら」や「ミナミノカオリ」よりも優れています。
3. コムギ縞萎縮病に強く、発生地域でも安定した生産が期待できます。
4. 子実のタンパク質含有率は「せときらら」より約1%高く、パン用として求められる値を達成しやすい品種です。また、製パン試験では、パンの膨らみや総合評価が「せときらら」や「ミナミノカオリ」を上回り、優れた製パン性を示しました。

表. 「せとのほほえみ」の品種特性

品種名	成熟期 (月.日)	収量 (kg/a)	容積重 (kg/ℓ)	子実の タンパク質 含有率 (%)	播性	耐倒 伏性	穂発芽 耐性	コムギ縞 萎縮病 抵抗性	赤かび病 抵抗性	パン比 容積	パン 評価点
せとのほほえみ	5.31	56.4	855	13.1	Ⅳ	強	やや難	やや強	中	5.7	82
せときらら	5.30	60.5	838	12.0	Ⅰ	やや強	中	中	中	5.0	70
ミナミノカオリ	6.01	56.9	829	13.4	Ⅰ	強	やや易	強	中	5.6	79

注) 育成地(広島県福山市)での広幅条播栽培による成績。播性はⅠ～Ⅲが春播性、Ⅳ～Ⅴは秋播性を示す。パン比容積は、パン体積(ml)/パン重量(g)により計算し、値が高いほどパンが膨らんでいることを示す。パンの評価点は比容積30点、官能評価点70点での評価による合計点を



写真. 「せとのほほえみ(右)」と「せときらら(左)」の食パン外観および断面

☆ 活用面での留意点

栽培の際には、パン用に適した子実のタンパク質含有率になるように実肥は必ず十分量を施用してください。原種苗入手先については、農研機構育成品種の種苗入手先リスト (https://www.naro.go.jp/collab/breed/seeds_list/index.html) をご確認ください。詳細はプレスリリース (https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/164955.html) をご参照ください。(農研機構・西日本農業研究センター 伴雄介)